

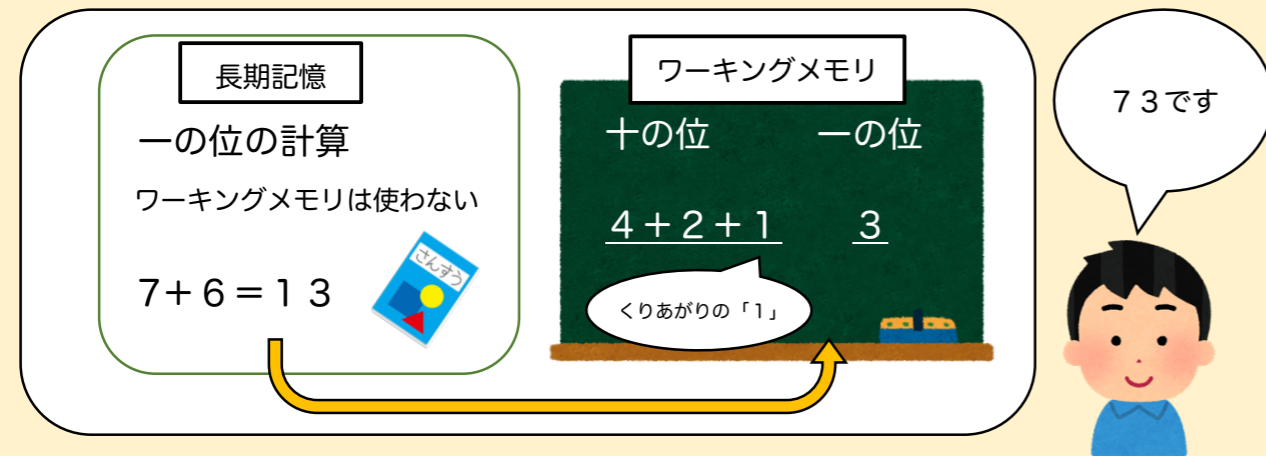


「ワーキングメモリ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？
 ワーキングメモリは日常生活であらゆる場面で使われている脳の働きです。
 近年、学習場面にも密接に関わっていることがわかってきています。
 これから数回にわたってワーキングメモリをはじめとする、
 学習を支える力についてご紹介していきます。

1. ワーキングメモリの基本的な働き

例) 繰り上がりのある二桁の数の計算をするとき

「 $47+26=?$ 」と聞かれた時、わたしたちの頭の中ではこのような処理を行なっています。



ワーキングメモリとは・・・

「脳の黒板」情報を一時的に覚えておきながら、目的に合わせて取り出し、考える働きです。

長期記憶とは・・・

すでに脳に蓄えられている（知っている）情報で、考えずに取り出せる情報です。

- ① 「 $7+6=?$ 」は「13」であるという知識を取り出す・・・長期記憶
- ② 長期記憶から取り出した数字「10」と「3」を記憶しておく・・・ワーキングメモリ
- ③ 十の位の「4」と「2」を思い出し、繰り上がりの「1」を足す・・・ワーキングメモリ

このようにして「 $47+26=73$ 」を頭の中で計算することができます。

加えて、彼は「答えは73です」と回答するという**目的を覚えているので**、答えることができます。

2. 日常でのワーキングメモリの働き

「目的を覚えておく」ことこそが、ワーキングメモリの基本的な働き！

「目的を覚えておく」ことこそが、ワーキングメモリの基本的な働き

・・・なのですが、このように大人でも何か他のことに気を取られてしまうと、目的忘れることがありますよね。子どもだとなおさら難しいものです。
 忘れてしまっても目的を思い出すことができるように環境を整えたり、工夫して関わるのが大切です。

～次回は、もう少しワーキングメモリについて詳しくみていきます～

< 参考 >

湯澤正通,湯澤美紀.ワーキングメモリを生かす効果的な学習支援.初版;2017
 湯澤正通,ワーキングメモリの発達と児童生徒の学習：読み書き・算数障害への支援,2019